

## 『製陶王国をきずいた父と子 大倉孫兵衛と大倉和親』

砂川幸雄著／晶文社

日本のセラミックスに関する産業や研究レベルはおそらく世界屈指と言えるでしょう。TOTOやINAX、日本特殊陶業、日本ガイシ、ノリタケとえば、一般の方でも知っている大手企業であり、世界のトップ企業といえるでしょう。実は、ある親子がこれらの企業を創立したり、それらを育てたりしているという真実をご存知でしょうか？私はずかしながらその事実を、ごく最近、ある本を通して知りました。晶文社から出版されている『製陶王国をきずいた父と子 大倉孫兵衛と大倉和親』を紹介させて頂きたいと思います。

本学の卒業生・修了生は、優秀な技術者であると同時に指導的な立場、すなわち、経営に携わることが期待されています。しかしながら、経営について何か学べる環境にあるかという点と十分に整っているとはいえません。また、経営者は技術にあまり詳しくなくても、経済や市場の動向、人の使い方や経理などに長けていればよいと思う学生諸君も多いのではないのでしょうか？事実、製造業においても経営者の多くは、いわゆる文系出身者です。こういう考えを持っている学生諸君には是非読んでほしい本です。

大倉孫兵衛は、いわゆる商人です。最初はアメリカとの貿易会社に勤め、陶磁器の輸出という形で窯業と関わりを持ちました。当時、日本にはアメリカ人が好む純白の硬質磁器を作る技術はなく、日常に使うコーヒーカップといった磁器製品の輸出はできませんでした。彼は、長い時間をかけ、国内の職人と技術開発を行い、大学の協力や海外の先端工場の見学などを通して、世界トップクラスの製品を作れるようになるまでに行きました。息子の和親も孫兵衛と同じくこの道に入り、日本陶器という会社を設立する際に社長に就任し、この日本陶器が後にノリタケとなりました。また、この会社で碍子の製造を始めるとやがて分社化して日本ガイシになりました。さらにこの日本ガイシから自動車用の点火プラグなどを作る部門が日本特殊陶業として分社化しました。

一方、大倉親子はサニタリーウェアの研究開発をはじめ、やがて、東洋陶器を創立します。これは今のTOTOです。また、土管を作っていた愛知県常滑の窯元への出資も行い、これがINAXへ成長して行きました。このとき、大倉和親は経営面と経済面の両方からサポートをしていました。

---

大倉親子の企業経営で驚かされることは、技術開発を重要視したこと、大学をうまく利用していること、先を読む能力に長けていることの3点に集約されます。そして、適当なところで安易な妥協をしない姿勢がそれらを支えています。こういった精神は現在の経営者にも必要ではないかと思います。特に、商人であるにも関わらず、技術を追求する大倉親子の姿勢・情熱には見習うべきところがあります。技術者を目指す学生にも企業経営における技術の重要性を再認識できる一冊だと思います。そして本学の卒業生・修了生から未来の大倉親子のような偉大な経営者が現れることを期待しています。

## 執筆者紹介

南口 誠

機械系准教授。専門領域は、材料工学、高温物理化学。

『書名』 著者名(翻訳者名) 出版社または文庫・シリーズ名 出版年 税込価格  
『製陶王国をきずいた父と子』 砂川幸雄著 晶文社 2000年 品切・絶版

[ブックガイド目次へ](#)